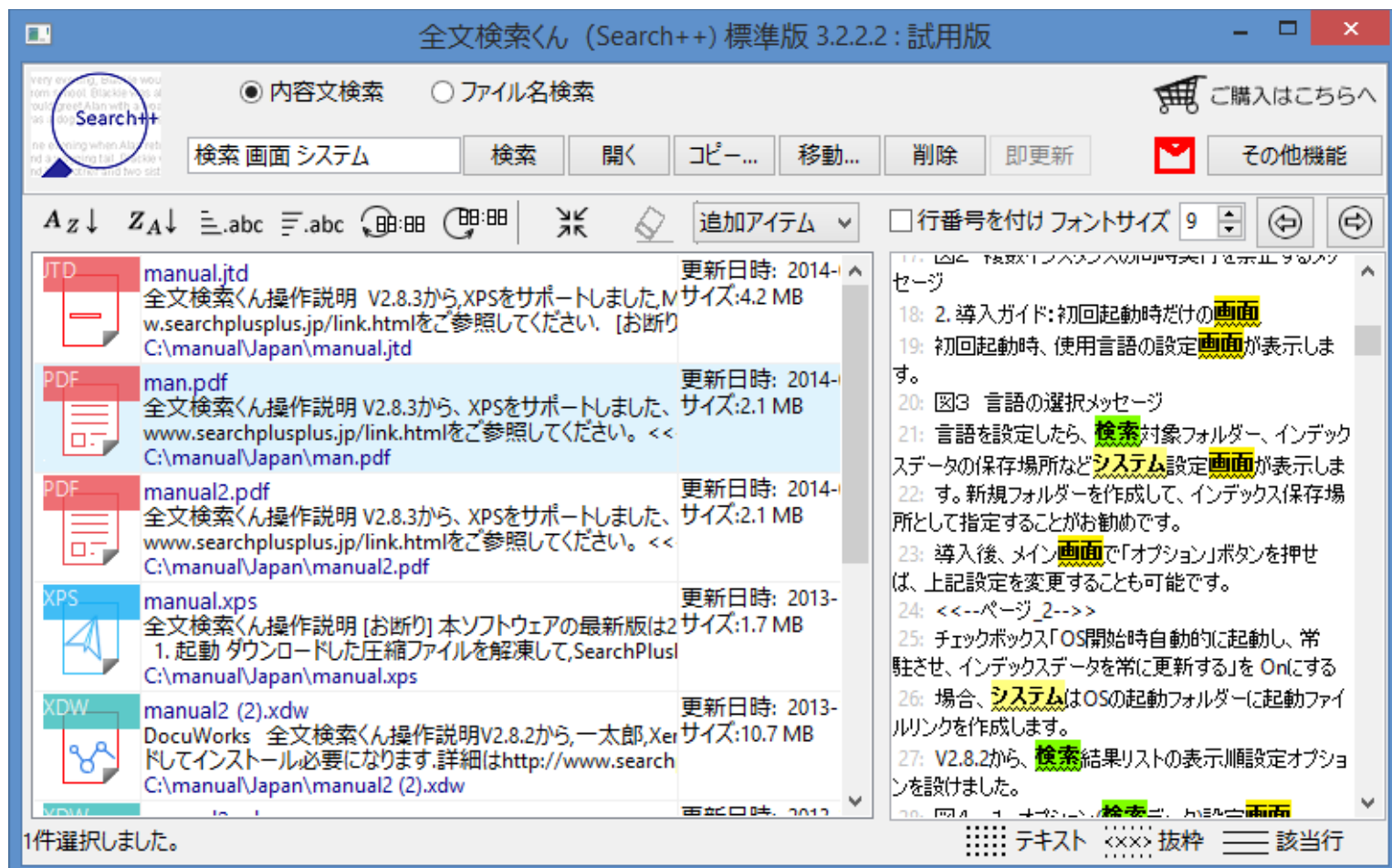


全文検索くん操作説明(標準版)



【お断り】

本ソフトウェアの最新版は 3.2.2.2 ですが、この説明書に変更のない画面について、旧バージョンのイメージをそのまま利用しています。

1. 起動

ダウンロードした圧縮ファイルを指定したフォルダーに解凍して、SearchPlusPlus.exe をクリックして起動させます。(全文検索くんのインストールフォルダーは C:\Program Files, C:\Program Files(X86)以外 にしてください、上記フォルダーに入れると、OS の権限管理問題で動かなくなる可能性があります。良い例 : C:\Searchplusplus または D:\SearchPlusPlus)

本ツールの複数インスタンスの同時実行は不可です。複数起動させたら、下記のメッセージが表示します。(この機能を実現させるため、本ツールは初回起動時ローカル PC に開いているポートを探して、設定ファイルに設定します。初回の実行でポートを探すため、時間がかかることがあります)

Windows XP をご利用している場合、[Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。(ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

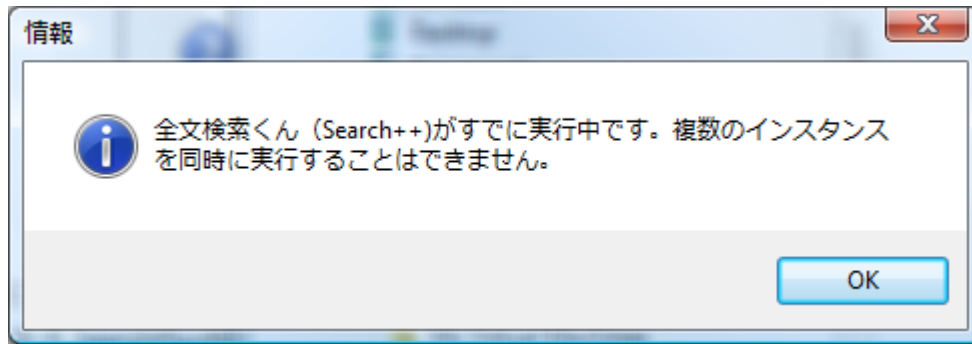
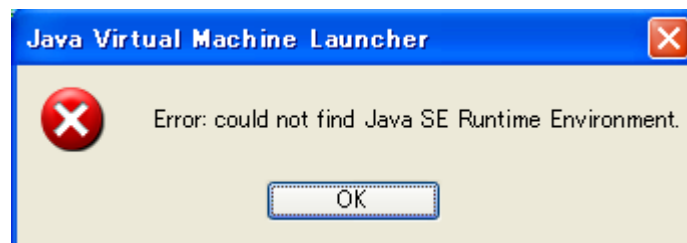


図 1 複数インスタンスの同時実行を禁止するメッセージ

Zip ファイルを展開する際、“展開されたファイルがありません”のようなエラーメッセージが出た或は Zip 展開した後 SearchPlusPlus.exe を起動させようと下記のようなエラーメッセージが出た場合、OS のコード設定不正と考えられます。OS のコードを日本語に設定してください(<http://www.searchplusplus.jp/contact.html> の Q7 をご参照)。



2. 導入ガイド：初回起動時だけの画面

初回起動時、使用言語の設定画面が表示されます。

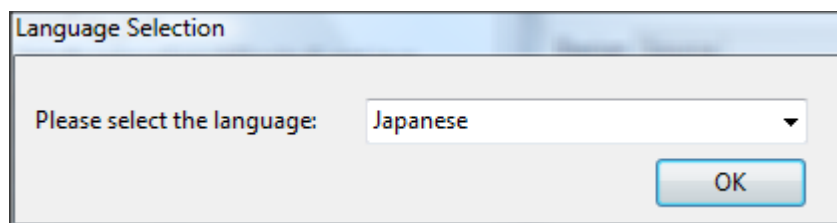


図 2 言語の選択メッセージ

言語を設定したら、下記のような導入設定画面が表示されます。

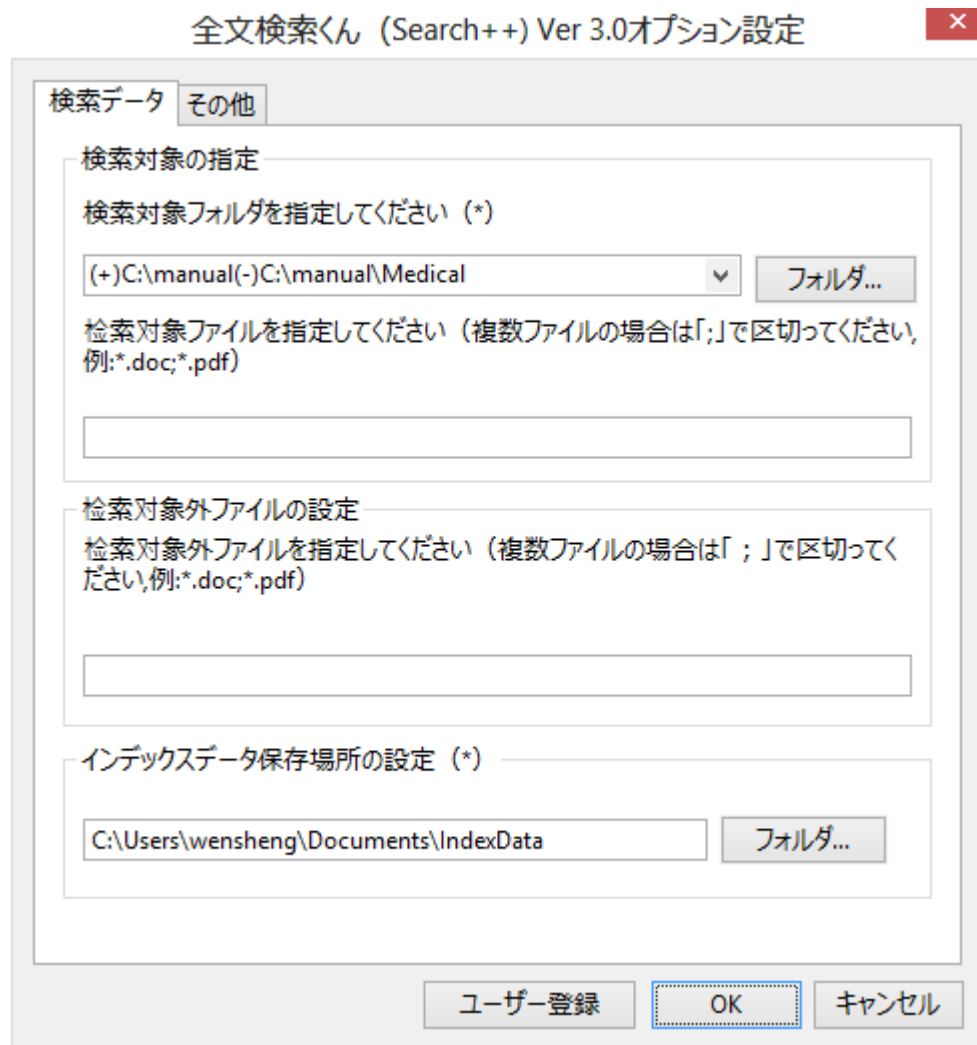


図3 オプション(検索データ)設定画面

検索対象として複数フォルダーを指定する場合は、上記画面にある「フォルダー…」ボタンを押して、図4のように、対象フォルダーの左側にあるチェックボックスにチェックを入れてください。サブフォルダーを検索対象から排除する場合、該当サブフォルダにチェックを外してください。図4で複数インデックスデータの作成が可能です。 「インデックス名の指定」に名称を入力して、エンターキーを押せば、タブのタイトルに名称が表示され、インデックス名の指定が可能です。画面の右上に「追加」、「削除」、「クリア」ボタンを押せば、タブの追加、削除及び設定のクリアができます。設定が終わったら、「OK」ボタンを押して、インデックスの作成が始まります。

検索対象フォルダの指定はOSのフォルダツリーから Drag & Drop かテキストボックスに直接入力も可能です。

複数インデックスデータをサポートするため、メイン画面でインデックス名リストが表示され、検索対象の切り替えるが可能です。さらに、マウスをカレントインデックス名に移動すると、検索対象フォルダー情報が表示されます。

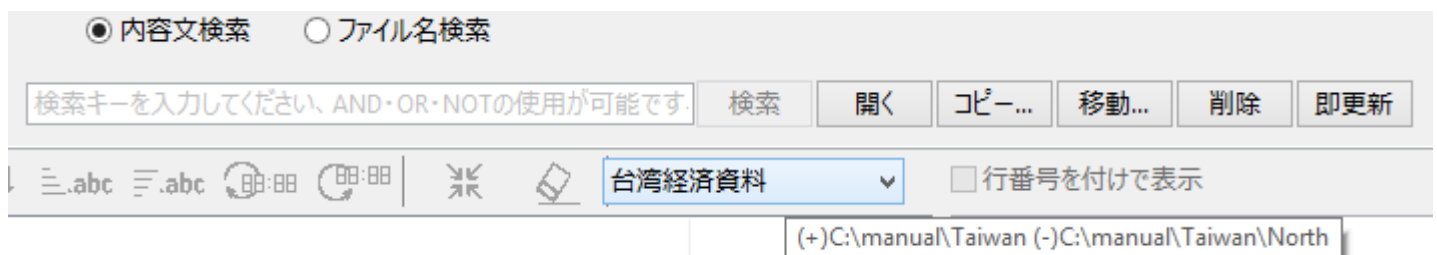


図3-1 メイン画面で検索対象の切り替えが可能

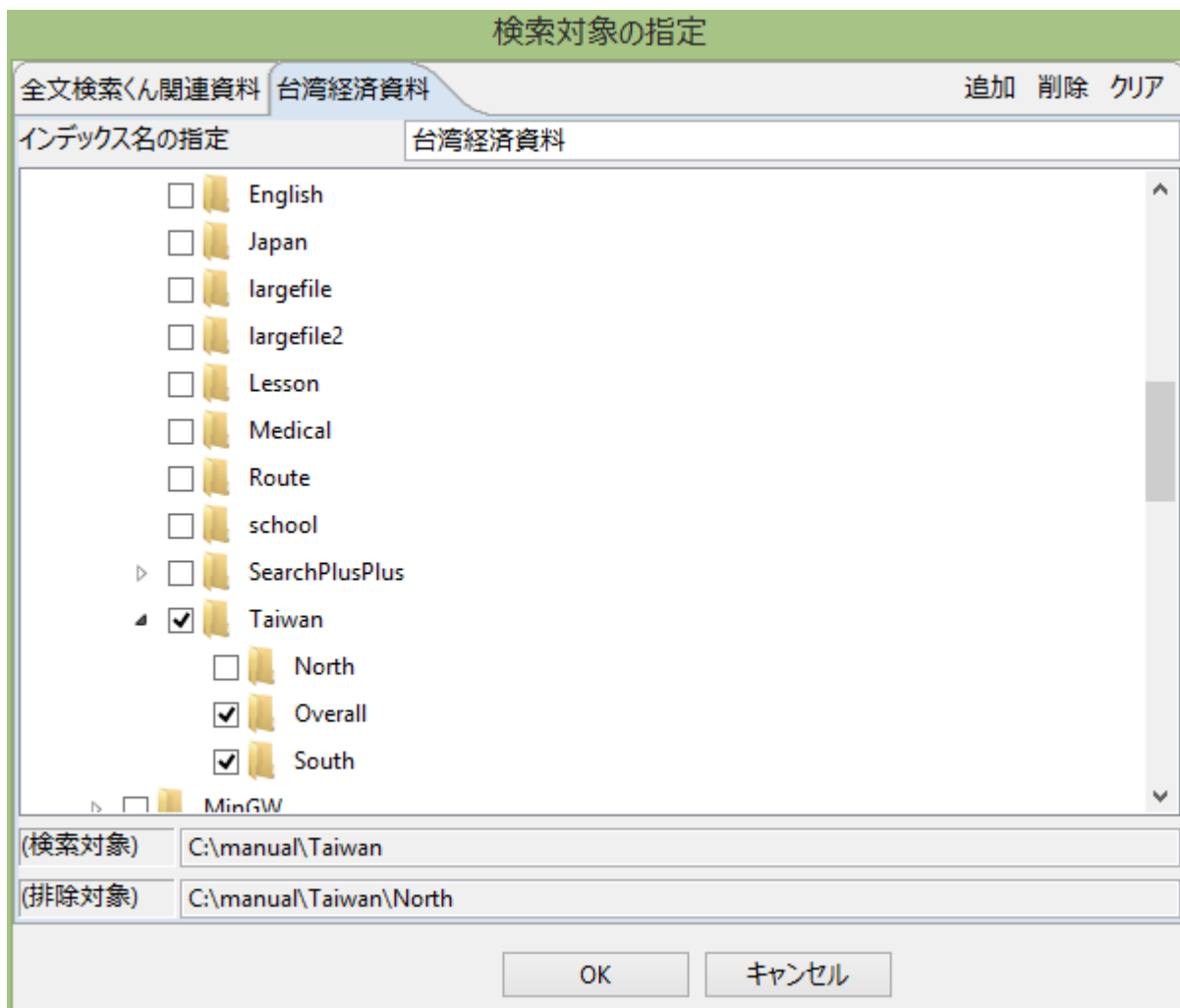


図4 チェックを入れる・外すによって検索対象フォルダーを指定・排除が可能

検索対象ファイルを指定する場合、図3の画面で拡張子を検索対象ファイルテキストボックスに入れてください、複数タイプのファイルを検索するには、「;」で区切ってください。（例：*.doc;*.pdf）、何も入力しない場合、すべてのファイルは検索対象になります。一方、図3の画面で検索対象外ファイルの指定もできます。指定方法は上記と同じですが、何も指定しない場合は、すべてのファイルは検索対象になります。

本ツールの仕組みとして、各ファイルに対してインデックスを作成してから検索することになりますが、インデックスデータ保存場所に対して、デフォルトとして Documents 下の IndexData フォルダに作成しますが、図3で「インデックスデータ保存場所の指定」フォルダボタンを押せば、ほかの場所を指定することが可能です。

「オプション設定」画面で「その他」タブをクリックしたら、検索画面を呼び出すホットキーの設定、検索結果リストの表示順、抜粋表示の行数設定、検索語の事前分析、システム実行モードなど指定できます。

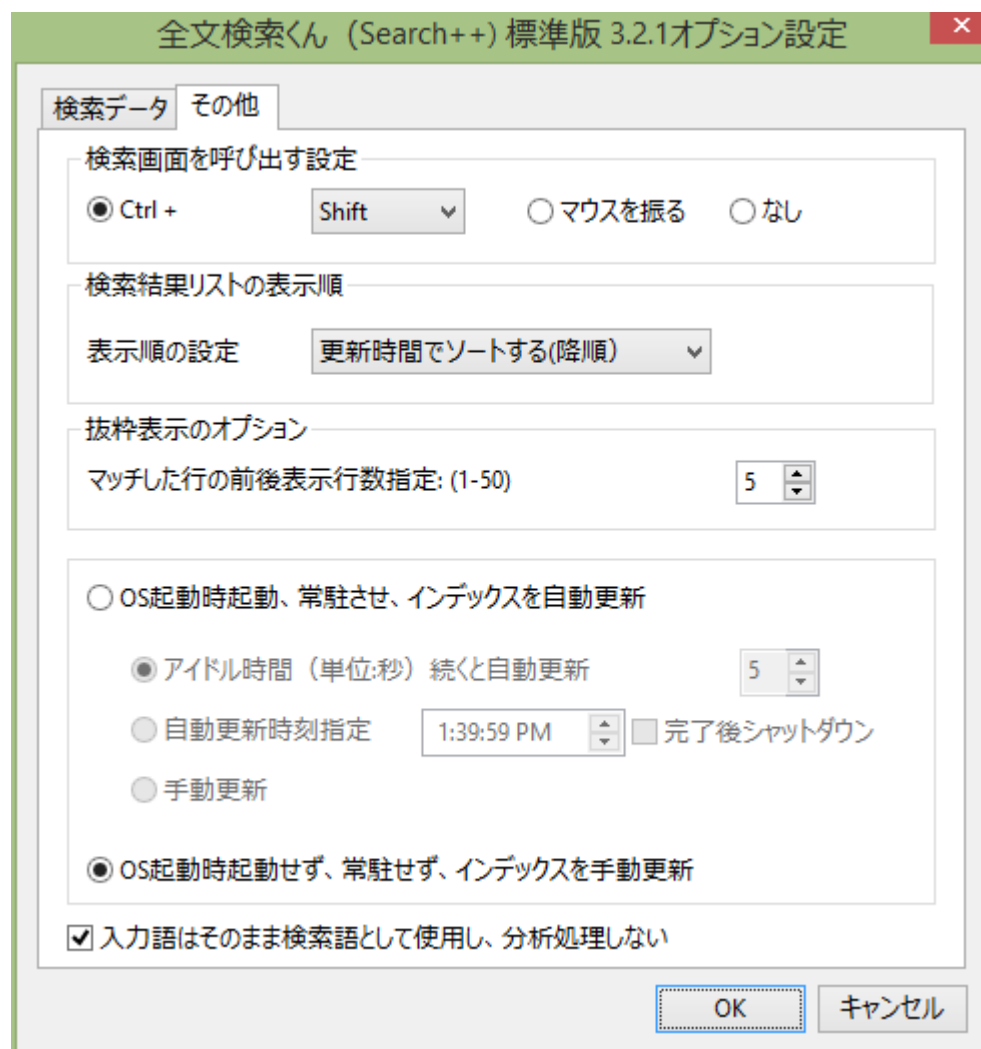


図5 オプション(その他)設定画面

3. お知らせ画面

下記画面のように、30日間の試用期間があります、試用期間内下記お知らせ画面が表示して、全機能の試用ができます。ライセンスを入力して、「認証」ボタンを押すと、ネットワーク認証を行い、成功した場合、次回起動時、この画面が消えます。

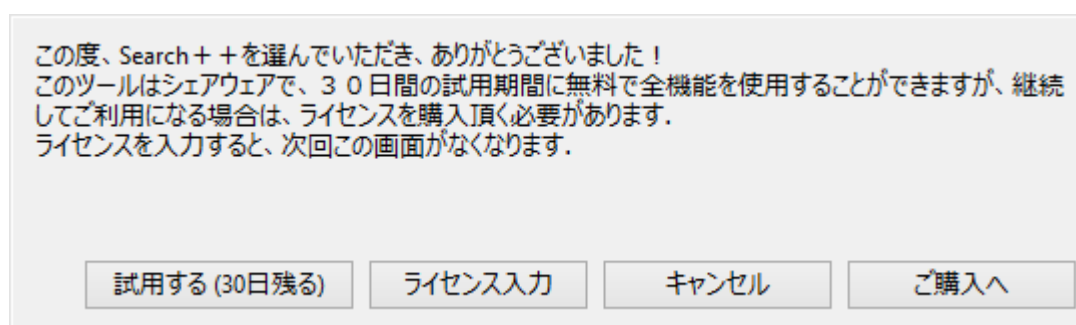


図6 試用版のお知らせ画面

4. 検索

メイン画面に検索ワードを入力して検索ボタンを押すと、検索を行います。検索ワードの履歴が残るので、入力すると、一致するものがリストに表示されます。

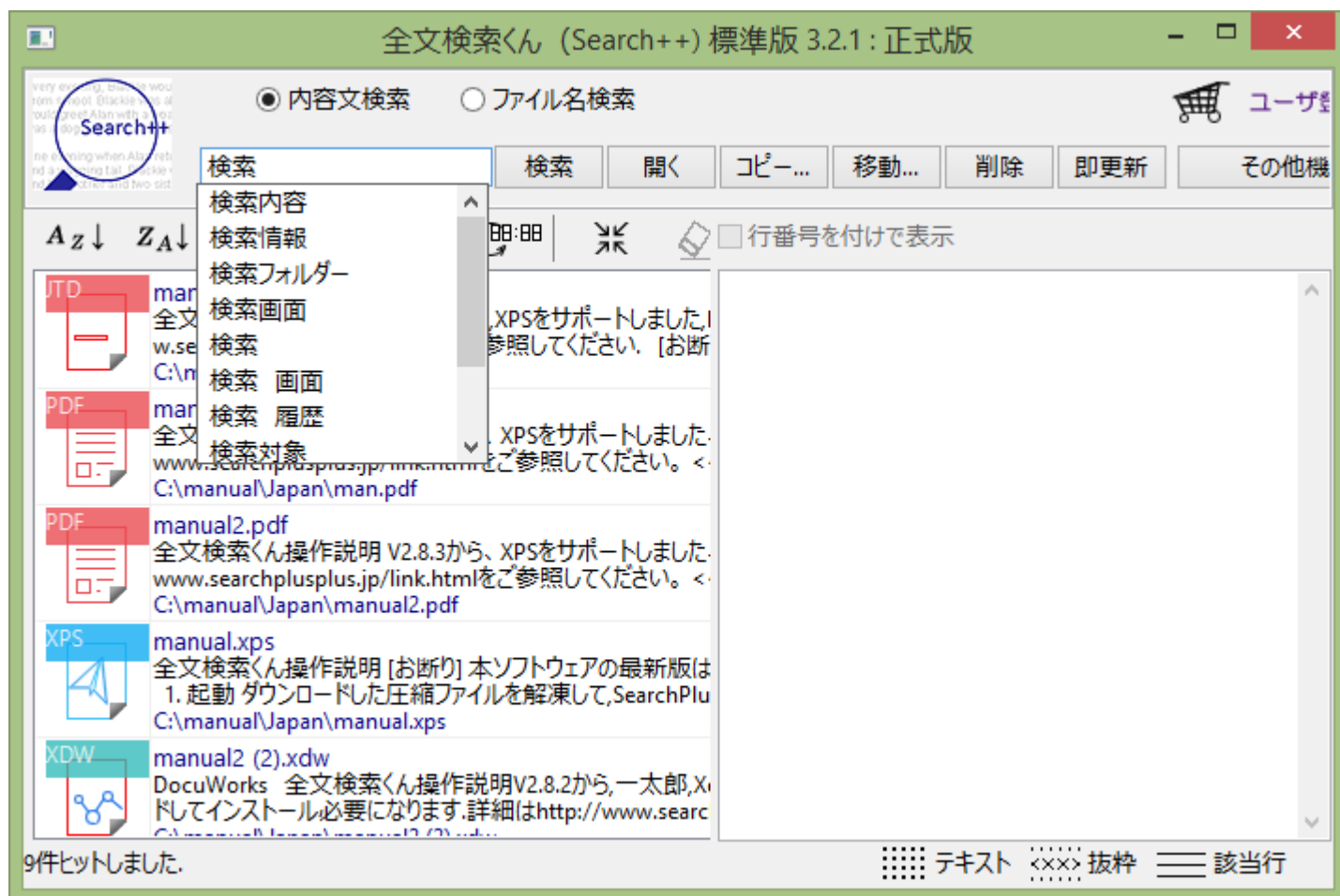


図7 メイン画面

検索対象フォルダーに対してのインデックスデータがなければ、下記のメッセージが表示します。インデックスを作成してから検索を行います。

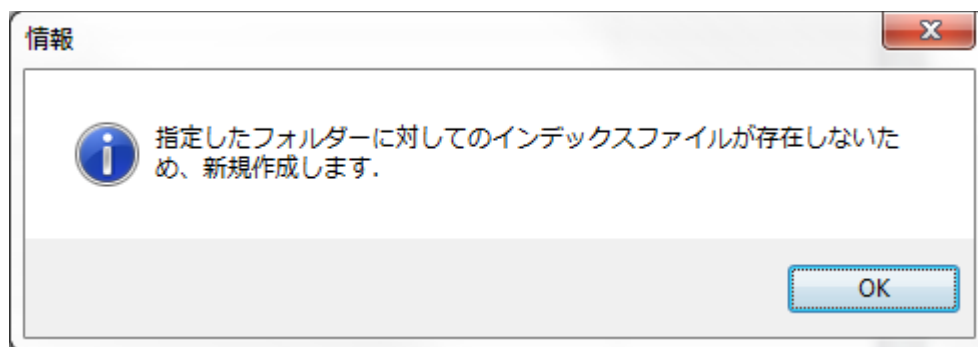


図8 インデックスデータ作成メッセージ

検索結果から言葉を拾って検索するには、該当文字を選択して、右クリックすれば、「検索」サブメニューが表示されます。そのメニューをクリックすると、検索が始まります。

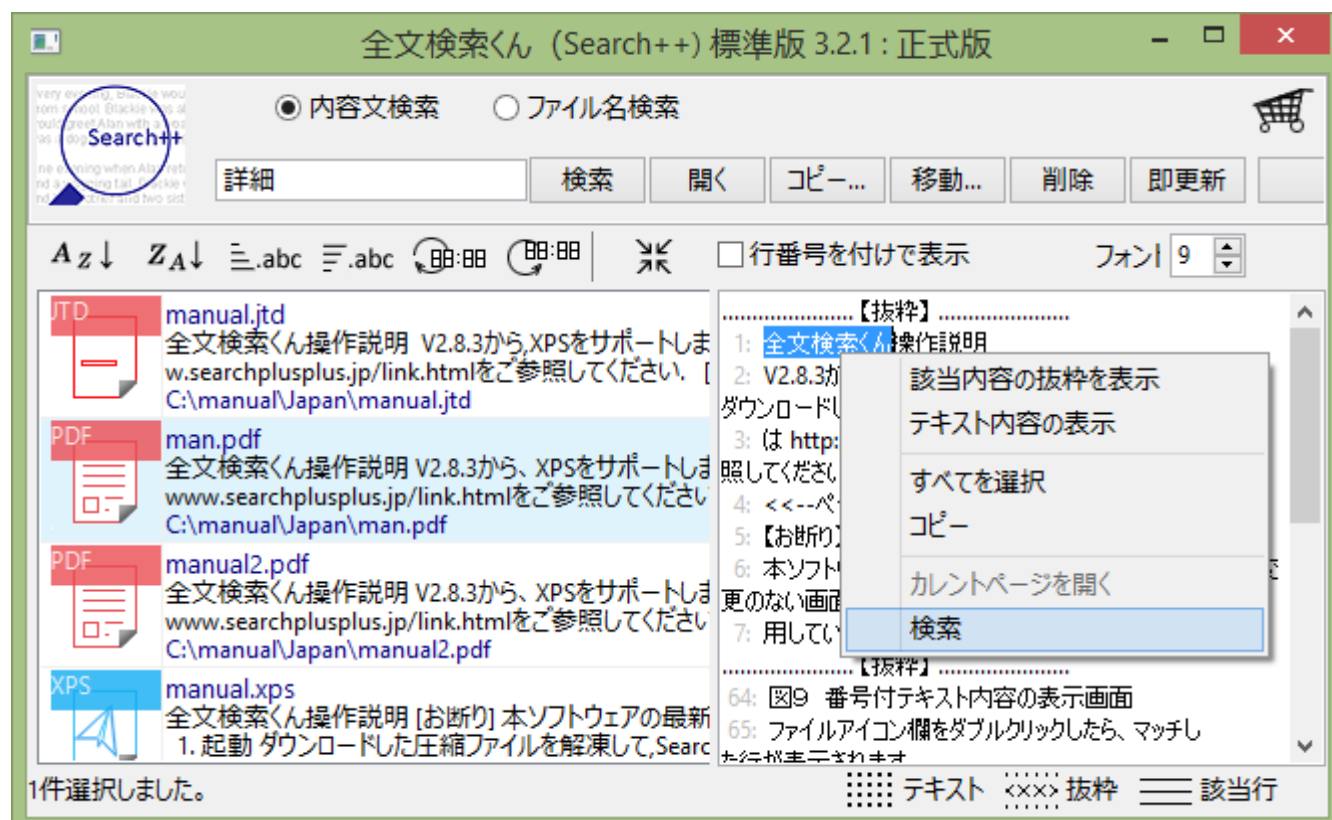


図 8 - 1 検索結果からサーチキーを指定

5. 検索結果画面

検索結果画面は以下のようです。左側のテーブルに結果ファイルアイコン欄、ファイル名欄、ファイル情報欄があれば、右側にテキスト表示領域があります。テキスト内容に検索キーワードは反転表示されます、複数キーワードの場合はそれぞれ違う色で反転されます。ヒット件数が1000件を超える場合、最大1000件まで表示します。

テキスト表示領域に対して、「行番号をつけて表示する」チェックボックスがあり、チェックを入れる、行番号を表示することになります。

テキスト表示領域のフォントサイズを変えたい場合、右上のスピンコントロールの上下ボタンを押すと、サイズの変更になります。

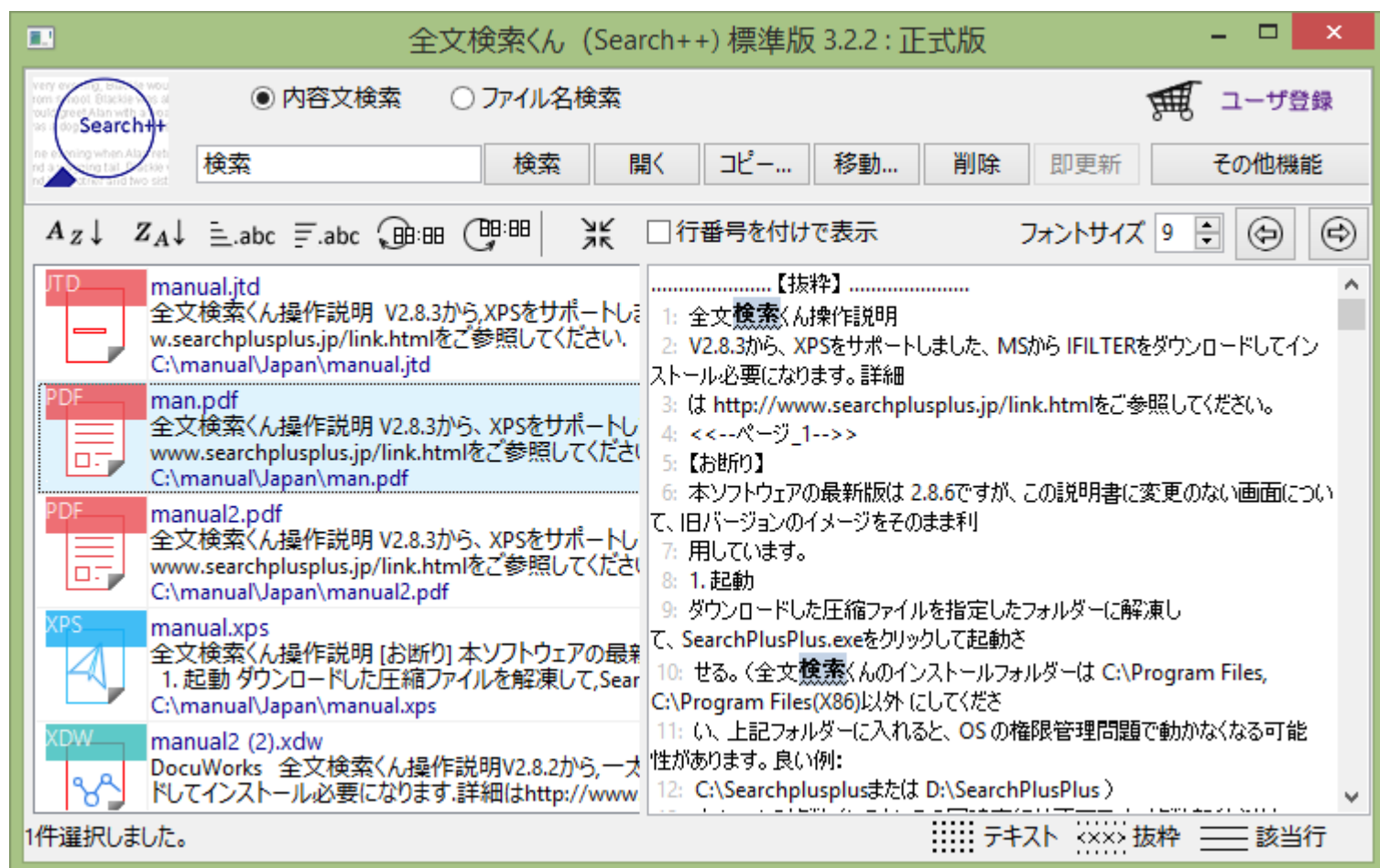


図 9 検索結果画面

6. 検索画面に対しての操作

画面の上部にチェックボックスがあり、内容文に対しての検索あるいはファイル名に対しての検索が選択できます。検索キーワードを入力して、Enterキーを押すか「検索」ボタンを押すかをしたら、検索をかけます。

検索結果リストのファイルにフォーカスを当たると、マッチ行の前後文章を表示されます（いわゆる抜粋表示機能）、↑ ↓ キーを押せば、ファイルを切り替えして表示します。ファイルを選択した状態で、「開く」、「コピー」、「移動」、「削除」ボタンを押すと、ファイルを開いたり、コピーしたり、移動したり、削除したりができます。

画面右下にある「テキスト」、「抜粋」、「該当行」をクリックすると、該当ファイルのテキスト内容表示したり、該当行前後内容（抜粋）だけを表示したり、該当行だけを表示したりします。



図 1 0 番号付テキスト内容の表示画面

該当ファイルのアイコンをダブルクリックするか下の「該当行」ボタンをクリックするかによって、マッチした行が表示されます。

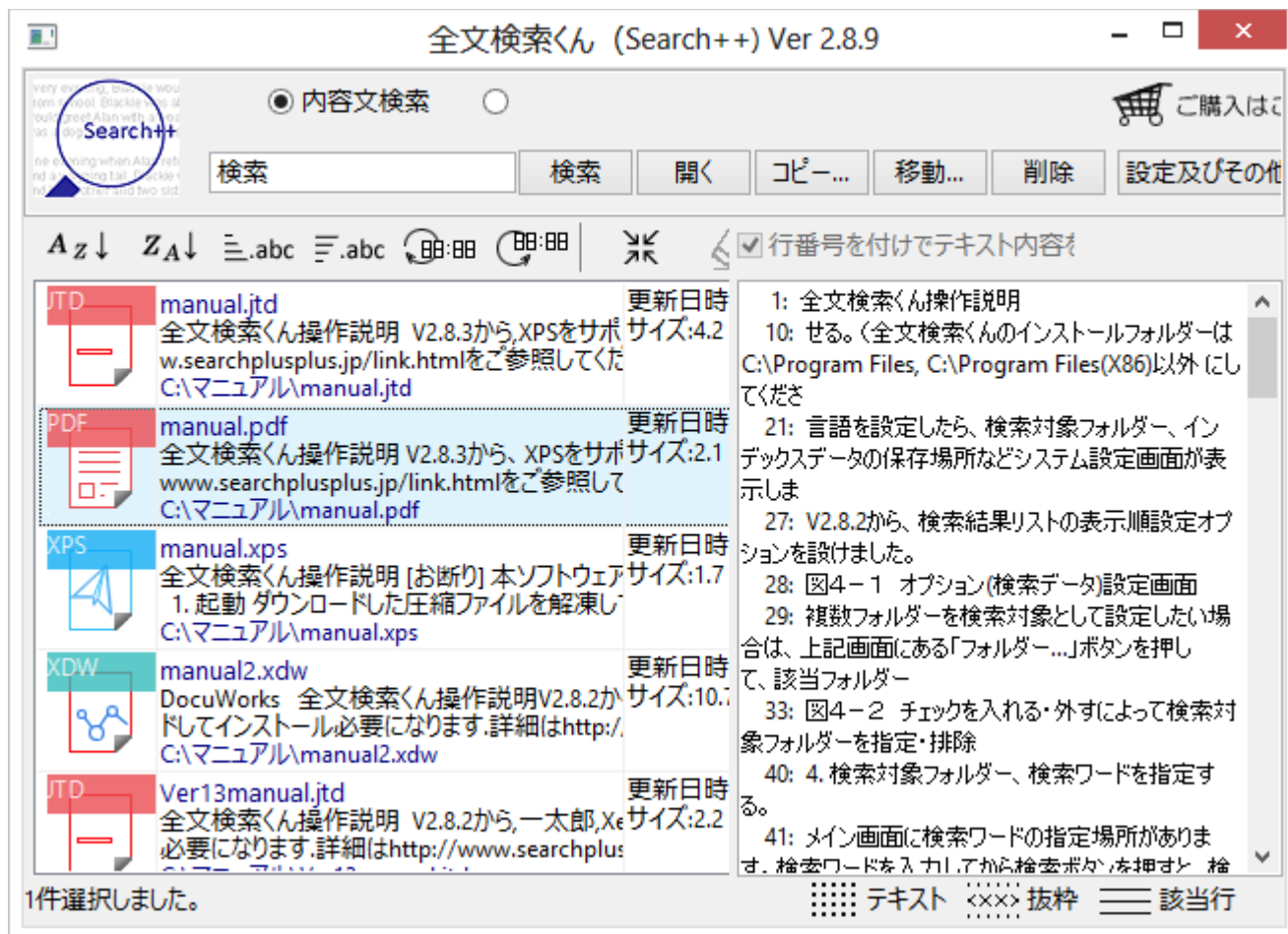


図 1 1 マッチした行の表示画面

該当ファイルの情報列をダブルクリックしたら、OS 上関連プログラムが立ち上がって、該当ファイルを開きます。(関連プログラム情報が無い場合は、なにも動きません。V2.3 以降、この機能を「開くとともに検索」ように強化して、詳細は後述をご参照してください。)

右マウスをクリックしたら、ポップアップメニューが出て、カレントファイルに対して、「該当行まで検索」機能、「テキスト内容表示」機能のほか、ファイル名をクリップボードにコピーする機能、該当フォルダーを開く機能、外部関連プログラムで開く機能もあります。



図 1 2 右メニュー

7. 実行モード

本ツールの実行モードは二つになります、非常駐モードと常駐モードです。

非常駐モードでは、OS に常駐しませんし、OS 起動時にも起動しません。非常駐モードでは、検索するたびに、前回インデックスデータの作成時間を提示し、インデックスを更新するかどうかユーザの判断を頂くことになります。

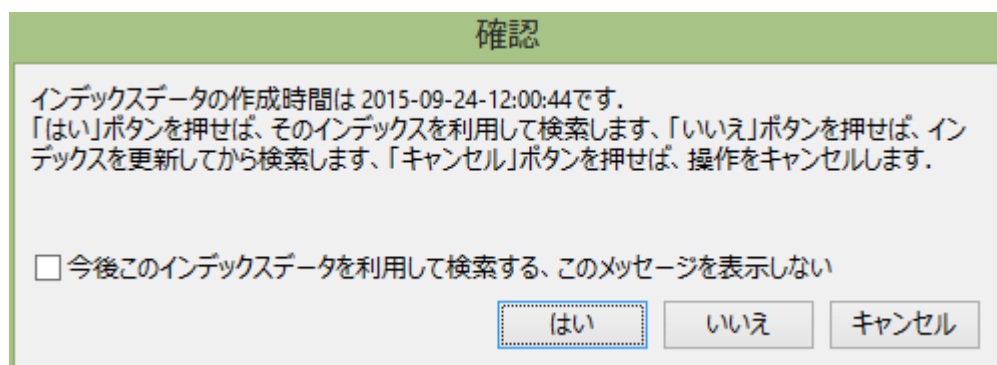


図 1 3 非常駐モードで検索したら、前回インデックスデータの作成時間を提示します

常駐モードではシステムトレイに入って、バックグラウンドで検索対象フォルダーを監視します、検索対象フォルダーにファイルの変更があれば、インデックスデータに反映するモードです。

常駐モードでは、OS 起動時にプログラムが起動します。



図 1 4 常駐モード（トレーモードとも呼ばれます）

常駐モードでは、下記図 1 4、図 1 5 のように処理状態は吹き出し Tooltip と Tooltip 両方で表示されます。

マウスをシステムトレイに全文検索くんのアイコンに移動していただければ Tooltip で状態を確認することができます。



図 1 5 吹き出し Tooltip で実行状態などを表示します

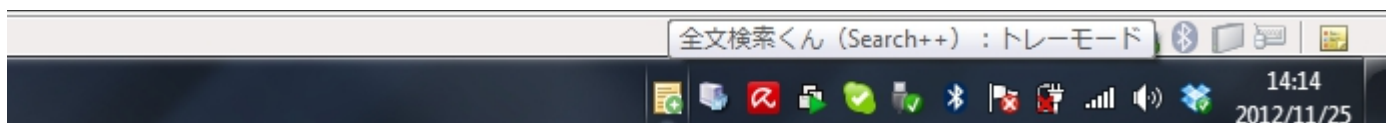


図 1 6 Tooltip で実行状態などを表示します。

トレイアイコンに右クリックしたら、下記画面が表示し、以下の機能が利用できます。

- 1) 検索画面（図 7 のメイン画面）を開くこと
- 2) 実行状態の確認すること
- 3) インデックス作成プロセス、検索プロセスを中止させること
- 4) インデックスの再作成すること
- 5) 本ツールを終了させること



図 1 7 トレーアイコンの右メニュー

また、検索画面（メイン画面）を開くには、ユーザが設定画面で設定したホットキーで押せばいいです。

二つモードの切替は前述の「図 5 オプション設定画面」に「OS 開始時自動的に起動し、常駐させ、インデックスデータを常に更新する」オプションをオンまたはオフにすれば実現します。

8. 外部プログラムで開く

図 6 の検索画面で三列目の「ファイル情報列」をクリックするか、図 1 2 の右メニューの三番目「外部プログラムで開く」か四番目「開くと同時に検索」をクリックするかによって、外部関連プログラムで該当ファイルを開くことができます。

PDF ファイル、Excel ファイル、Word ファイル、Powerpoint ファイルに対して、「外部プログラムで開く」と「開くと同時に検索」機能を実現しました、前者の場合、ファイルを開くだけです、後者の場合ファイル開いたら検索をかけます。

PDF ファイルの場合は、該当箇所のテキストをハイライトしますが、Excel ファイル、Word ファイル、PowerPoint ファイルの場合は、青色で表示します。この機能を利用するには、PDF ファイルの場合、PDF Xchange Viewer または Adobe Reader のインストールが必要です、。Excel、Word、Powerpoint ファイルの場合、MS Office のインストールが必要です。

上記の機能改善は前述のファイルタイプに限って、かつ、検索キーが単一キーだけに適用します。複数キーの場合はファイルを開くだけになります。

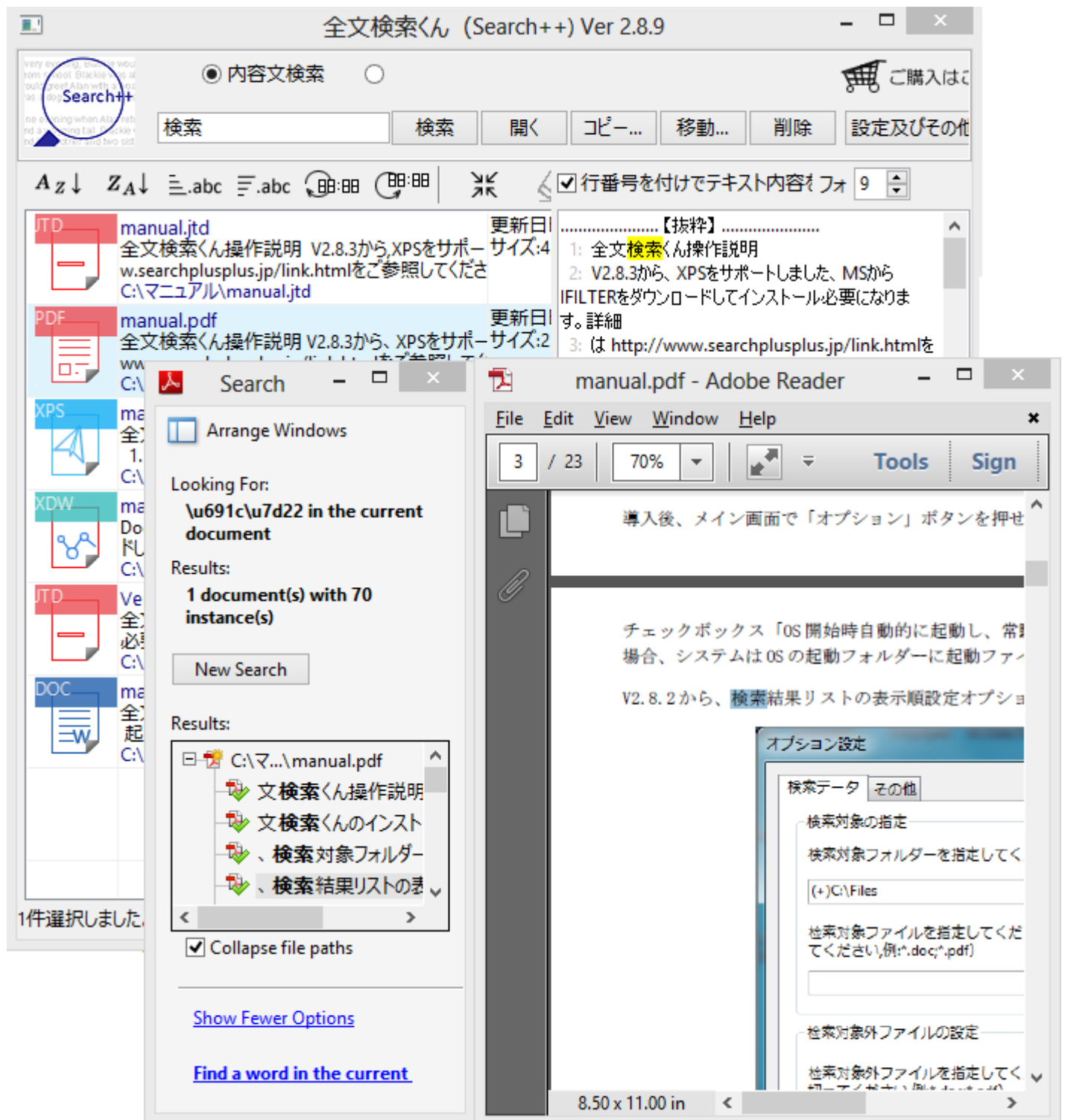


図 1 8 - 1 外部プログラムで PDF ファイルを開きます

V2.8.9 では、PDF に対して、ページ情報の解析ができて、マウスをクリックした場所のページまで開くことが可能です。詳細手順は以下です。

- 1) メイン画面左画面検索結果リストの PDF ファイルを選択します。
- 2) 右下の「テキスト」ボタンをクリックします。
- 3) 右側のテキスト表示領域で右マウスをクリックすると、「カレントページを開く」メニューがでます。

4) 「カレントページを開く」メニューをクリックして、マウスポイントが当たった場所の該当ページを開きます。

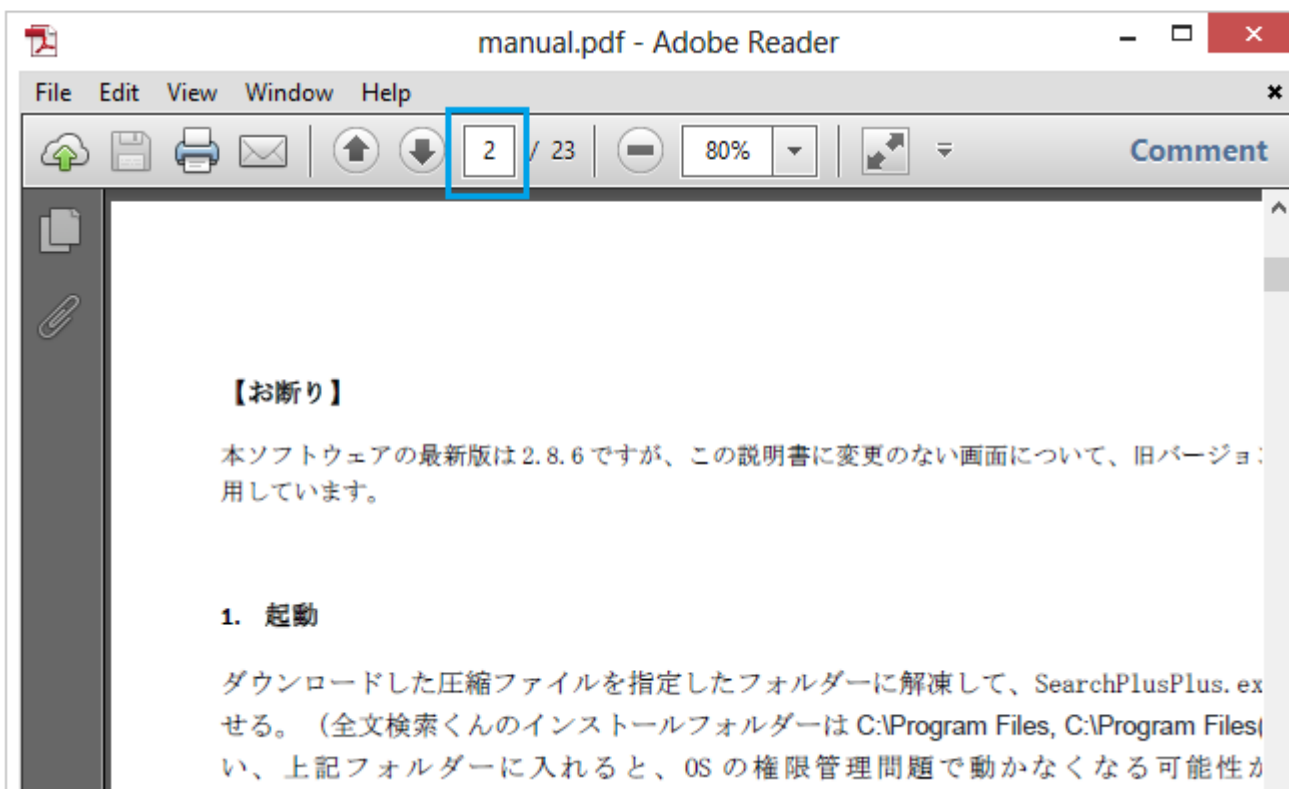
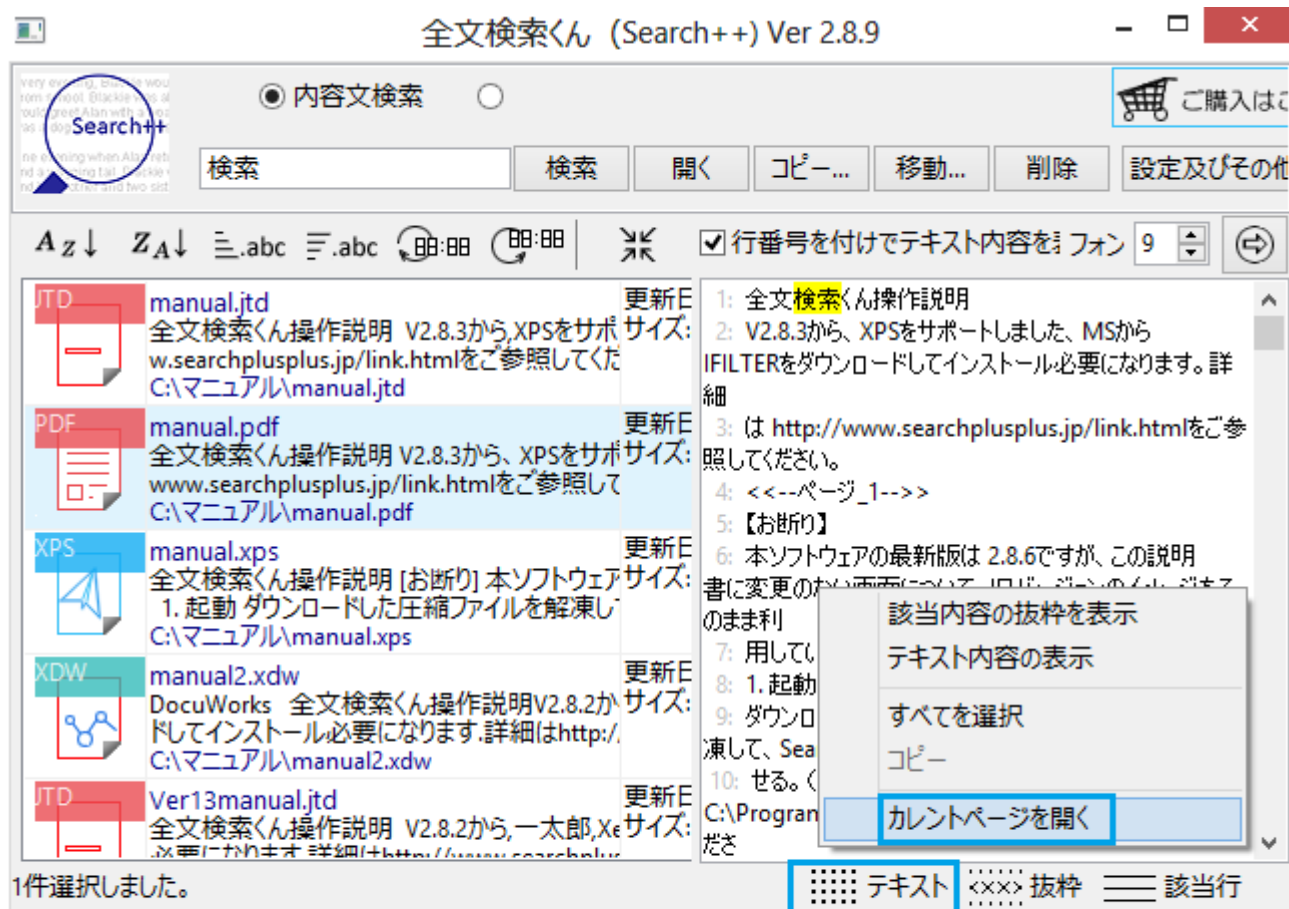


図 1 8 - 2 外部プログラムで PDF ファイルの指定ページを開きます

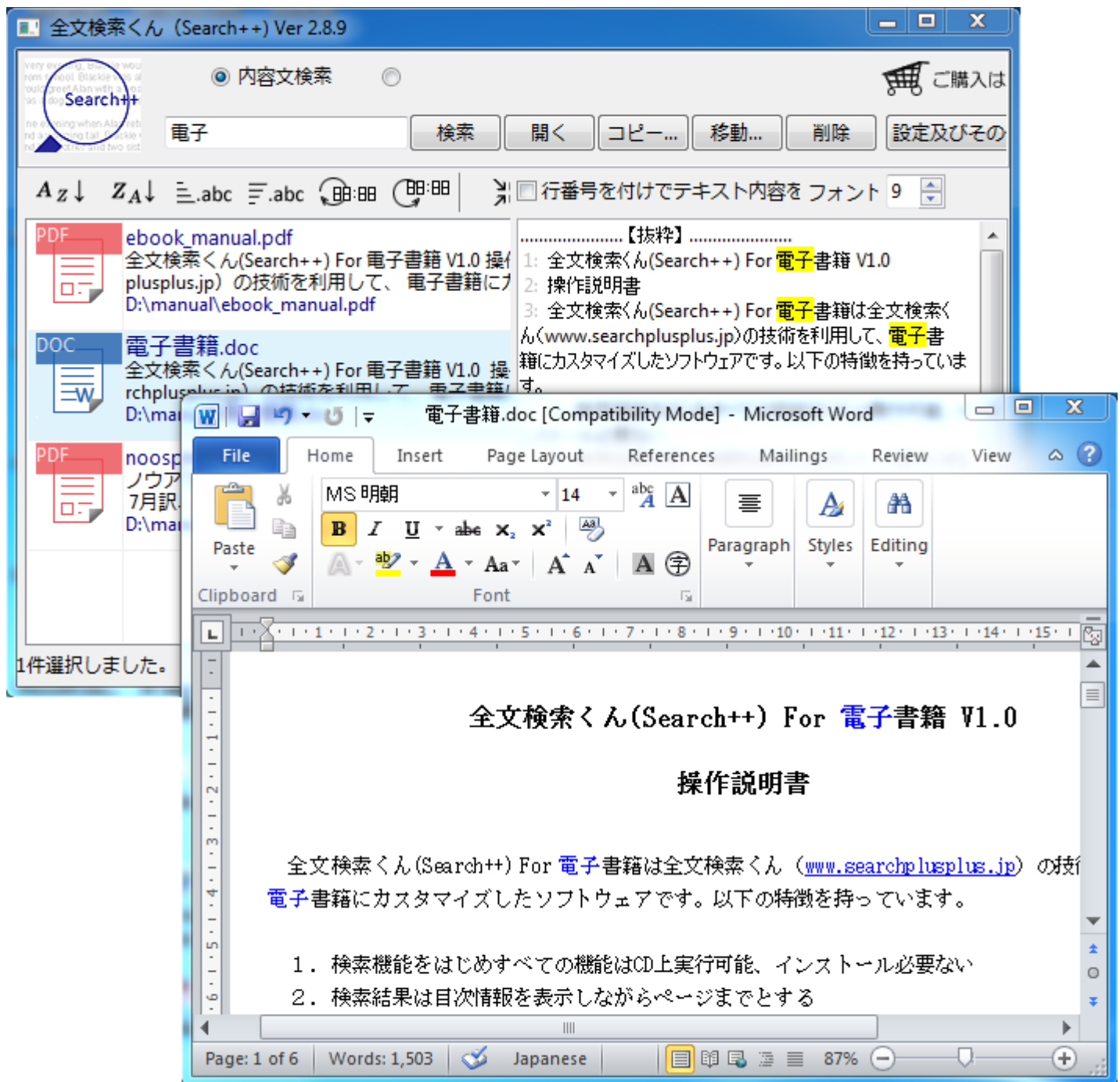


図 1 9 外部プログラムで Word ファイルを開きます（該当文字は青色で表示しています）

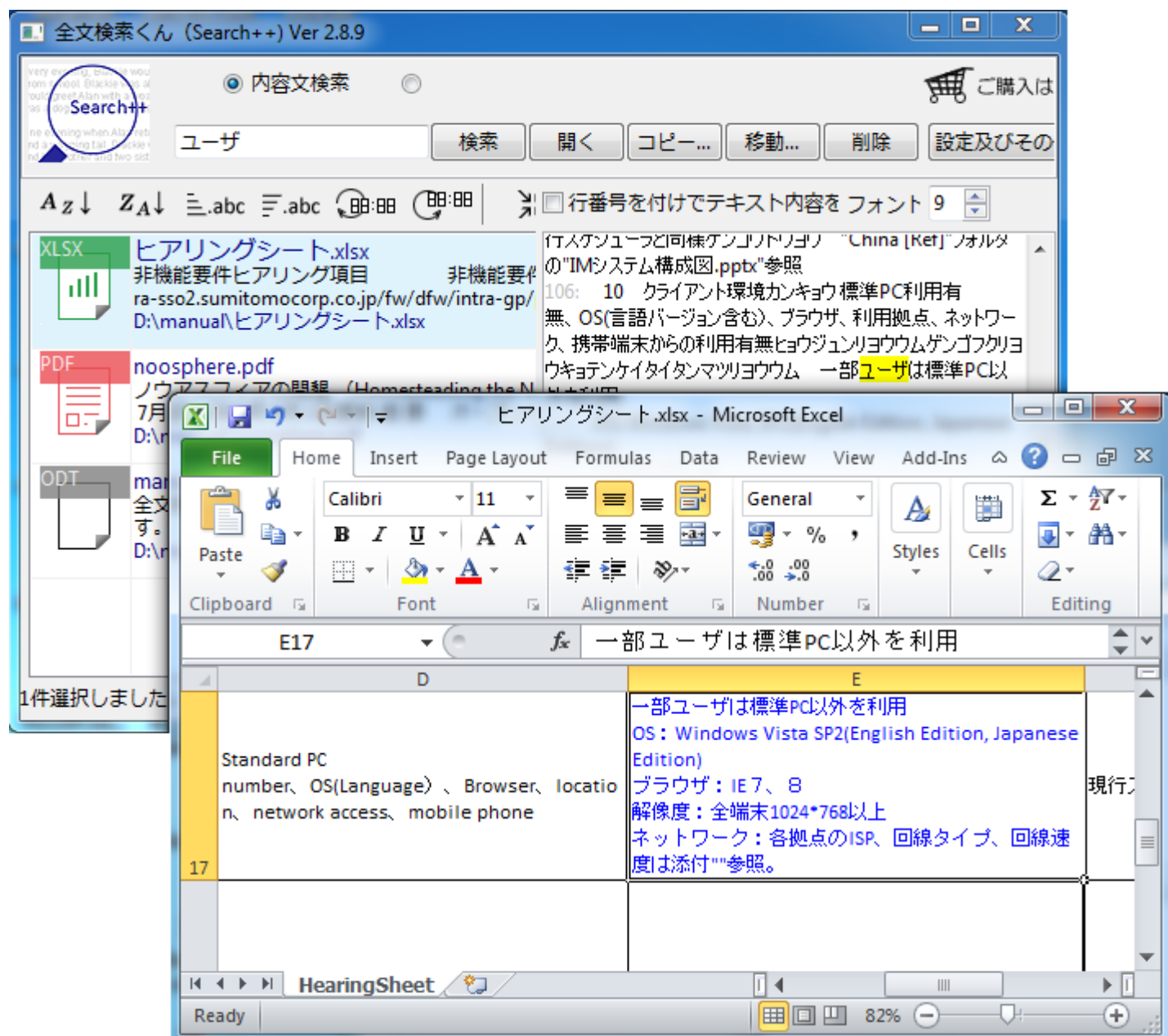


図 2 0 外部プログラムで Excel ファイルを開きます（該当セルは青色で表示しています）

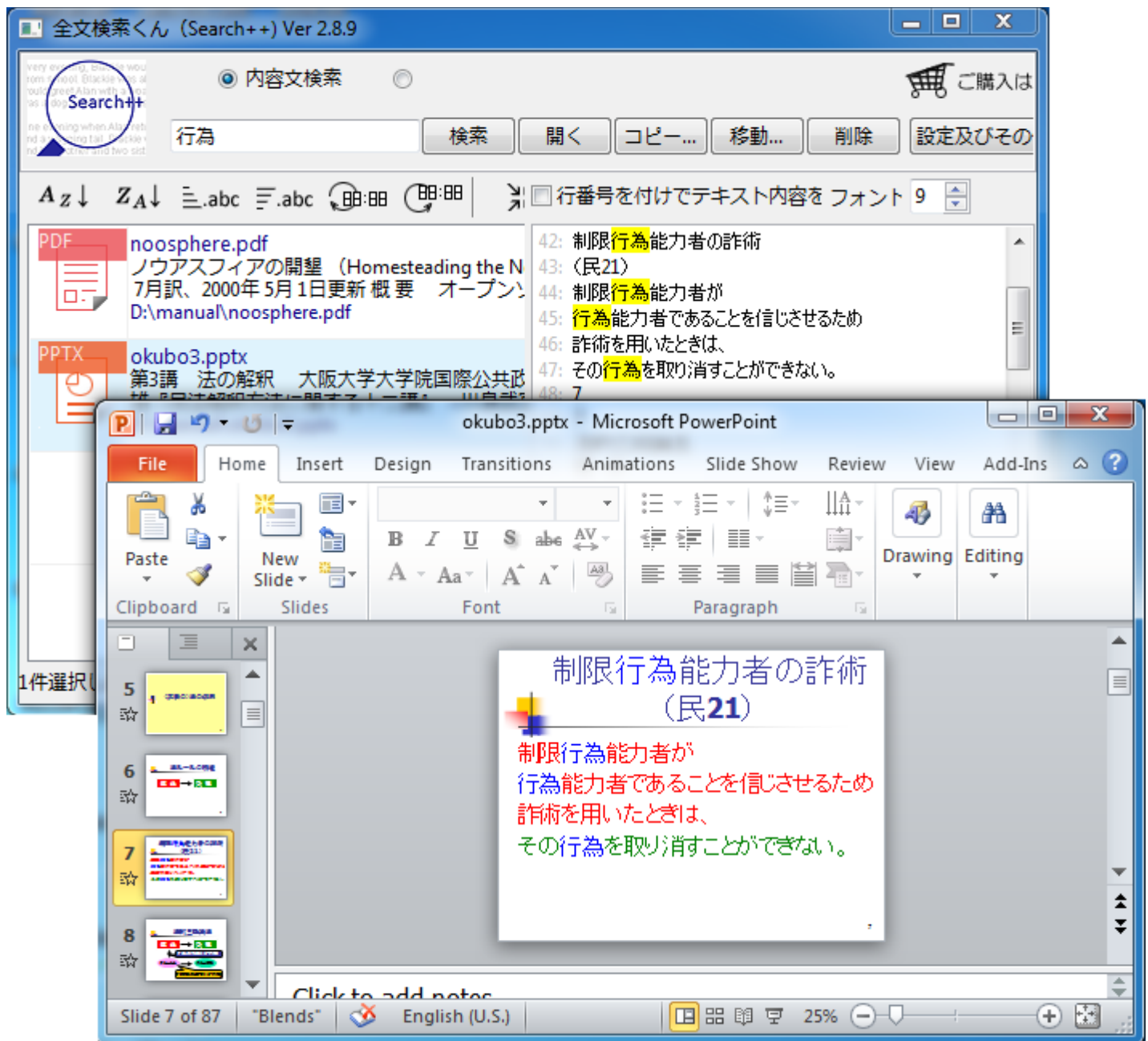


図 2 1 外部プログラムで PowerPoint ファイルを開きます（該当文字は青色で表示しています）

9. 検索キーについて

検索機能について、複数検索キーの指定が可能です。検索キーがいずれ存在すれば、そのファイルが検出されます。さらに、本ソフトでは、入力した検索語に対して、複数のキーワードに分解してから、検索をかけます、いわゆる、キーワードの分析（Parse）機能を実現していました。例えば、「検索画面」を入力したら、検索キーワードは「検索」と「画面」となります。「検索画面」をひとつキーワードとして、検索したい場合は、半角ダブルクォーテーションで括るとすればいいです。つまり、入力文字列は“検索画面”となります、いわゆる固定キー検索になります。

V2.8 からユーザのご要望で、下記画面のように、「入力語はそのまま検索語として使用し、分析処理しない」のオプションを追加しました。このオプションにチェックを入れる状態で、半角ダブルクォーテーションを入力しなくて、デフォルト検索は固定キー検索になります。

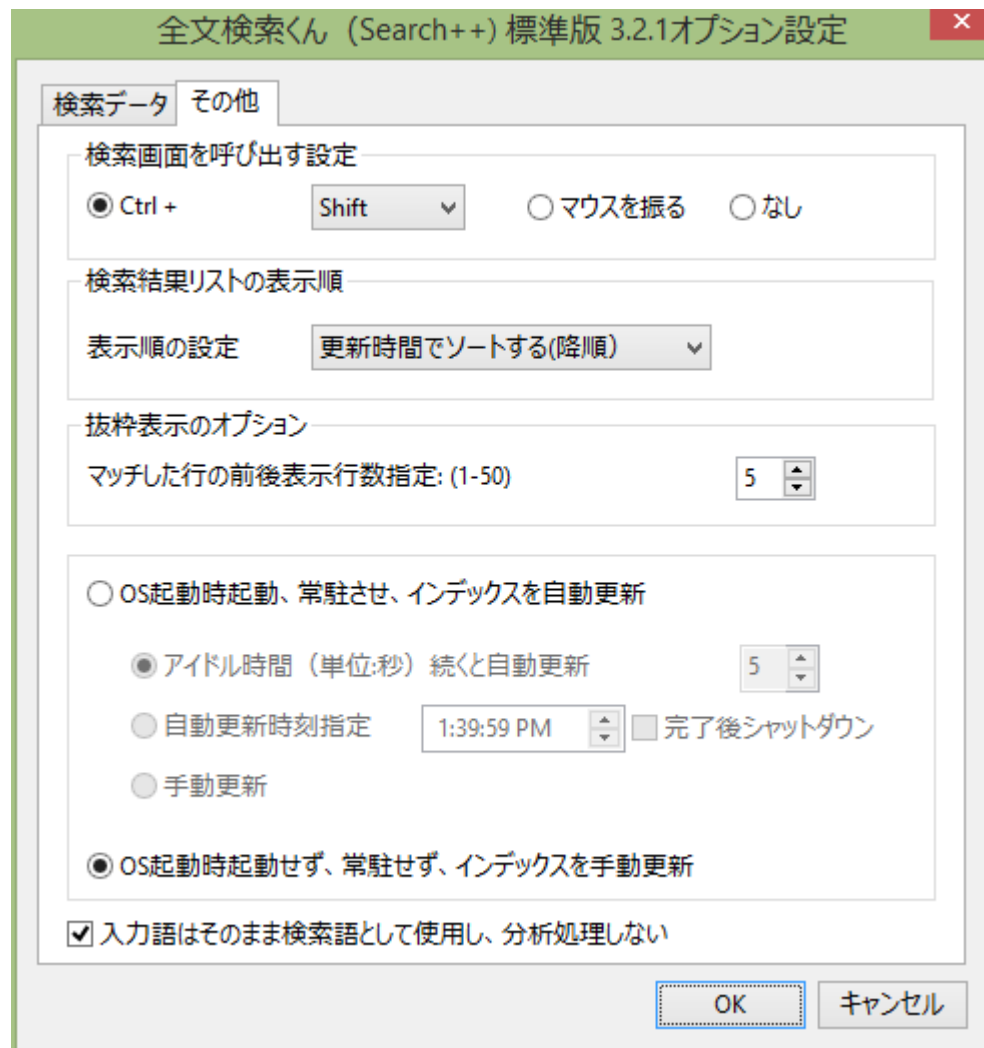


図 2 2 キーワード分析するかどうかのオプション画面

「分析処理しない」のオプションを設定している状態での検索結果と設定していない時の検索結果を以下ようになります。

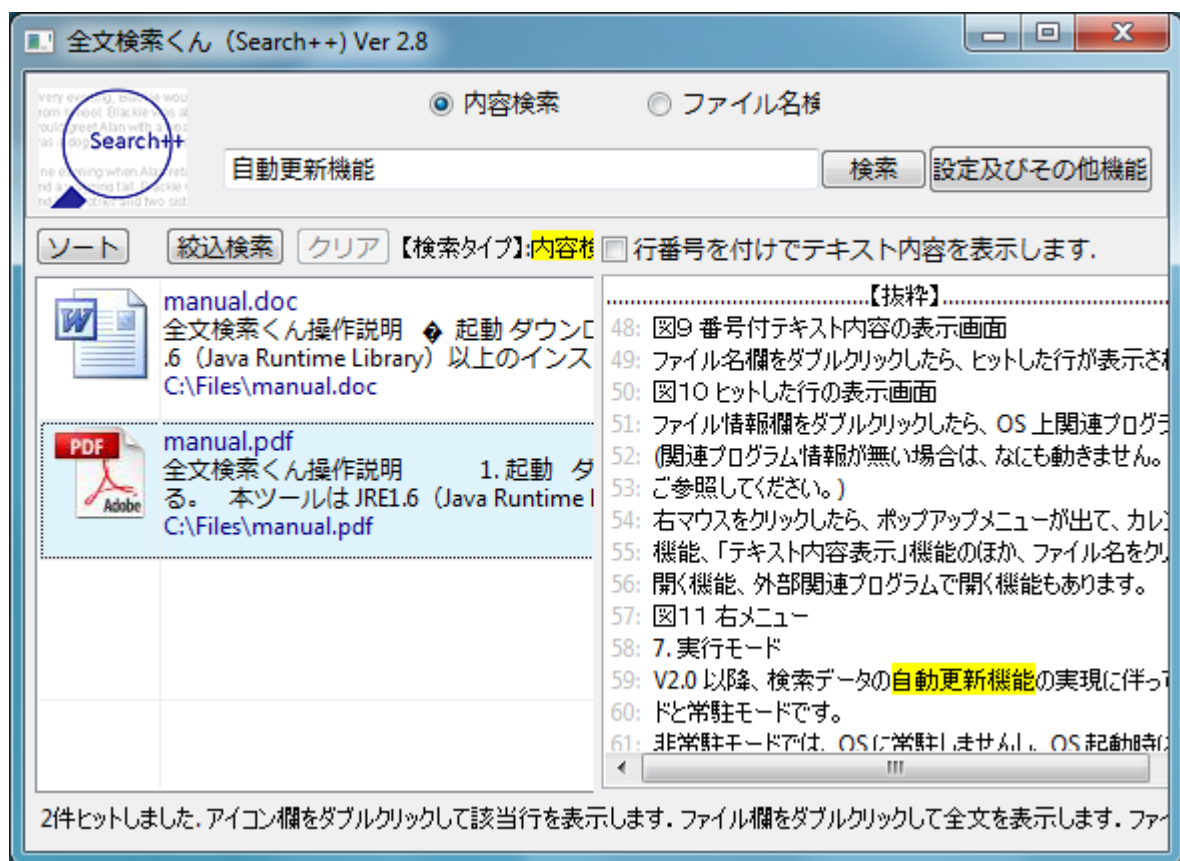


図 2 3 入力語を分析処理しない検時の索結果

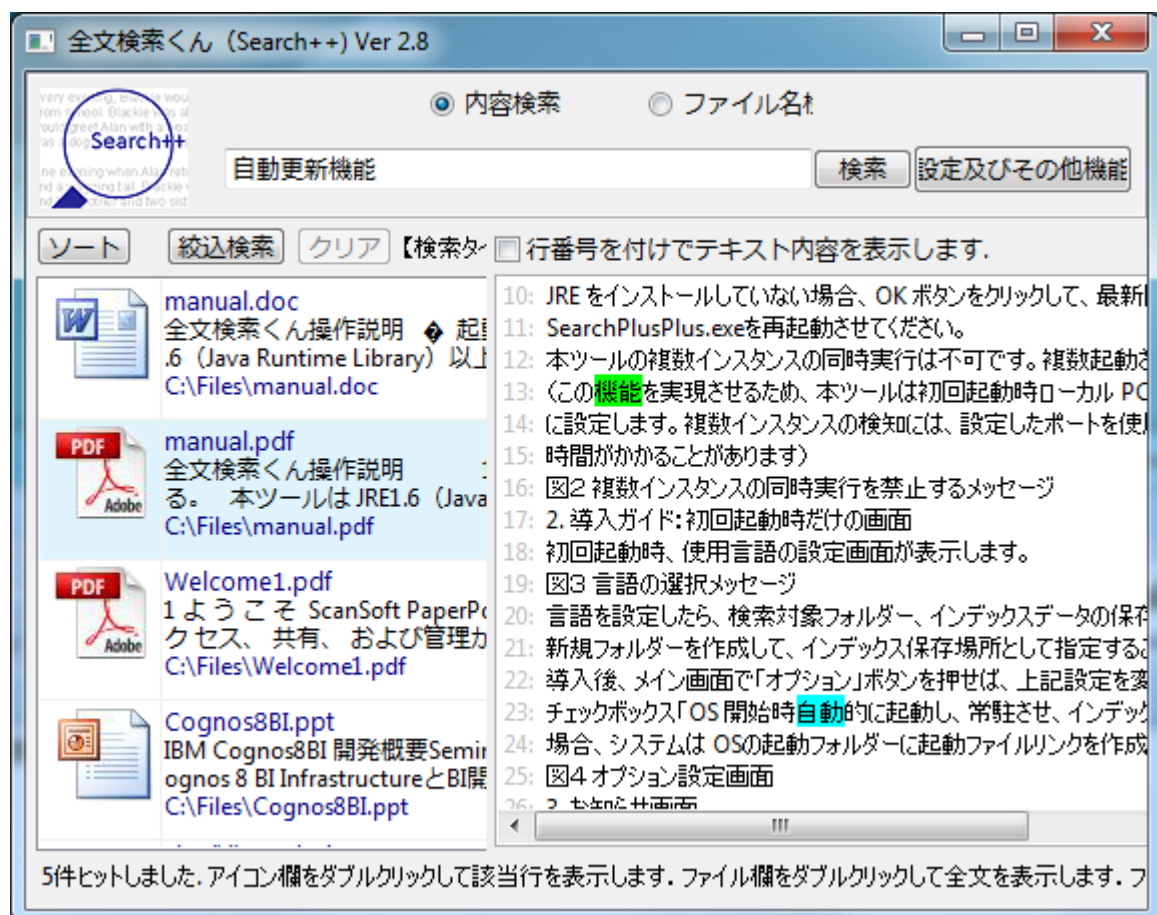
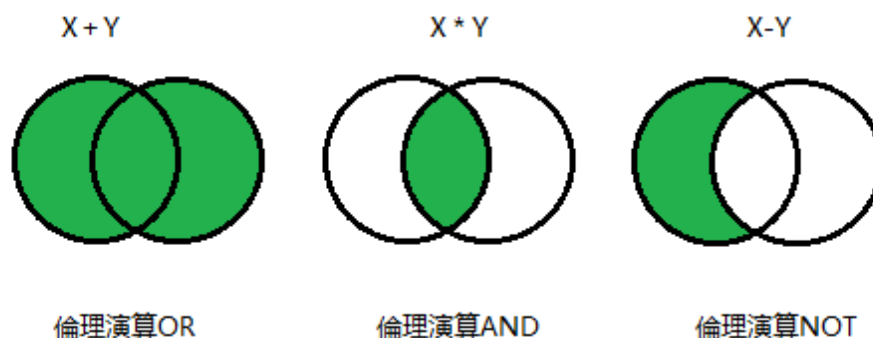


図 2 4 入力語を分析するように設定した時の検索結果

複数検索語の場合、検索語に対して、論理演算子 AND/OR/NOT を使用することができます。指定しない場合はシステムは O R と処理します。



論理演算子の使用方法ですが、論理演算 OR の場合、検索ボックスに「キーワード 1 OR キーワード 2」を入力してください、論理演算 AND の場合、検索ボックスに「キーワード 1 AND キーワード 2」を入力してください、論理演算 NOT の場合、検索ボックスに「キーワード 1 AND キーワード 2」を入力してください、それぞれの検索範囲は上記の図に示したようです。

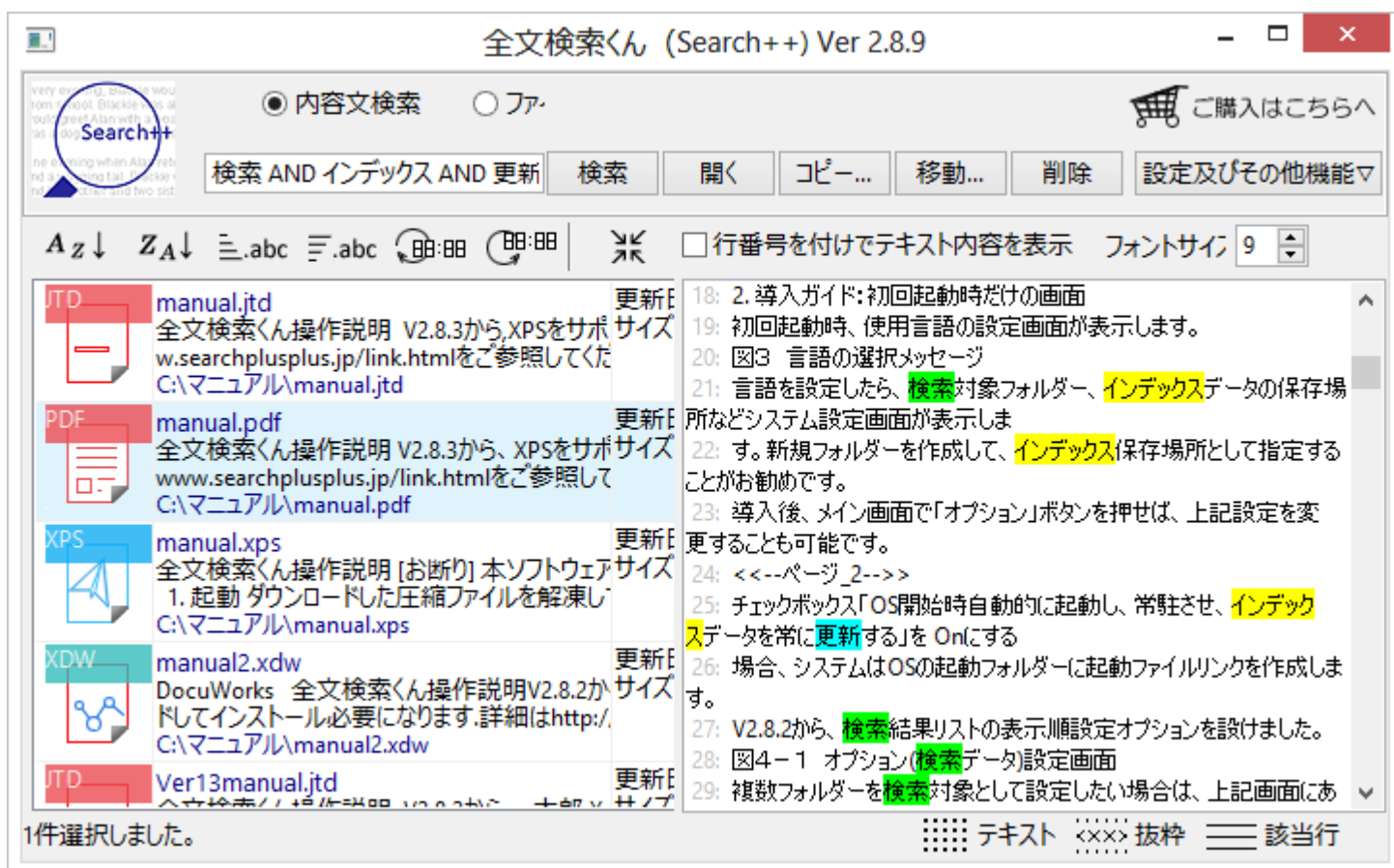


図 2 5 論理演算検索 (AND)

v2.8.5 から、近傍検索機能を実現しました。単語と単語の距離を検索条件として指定することで、より関連度の高い情報に絞り込むことができる検索方法を「近傍検索機能」と呼びます、近傍検索機能は特許業界でよく使われているようです。

下記画面のように検索キーワードとキーワードの間に単語の数を指定すれば、関連度の高い情報を検索できます。

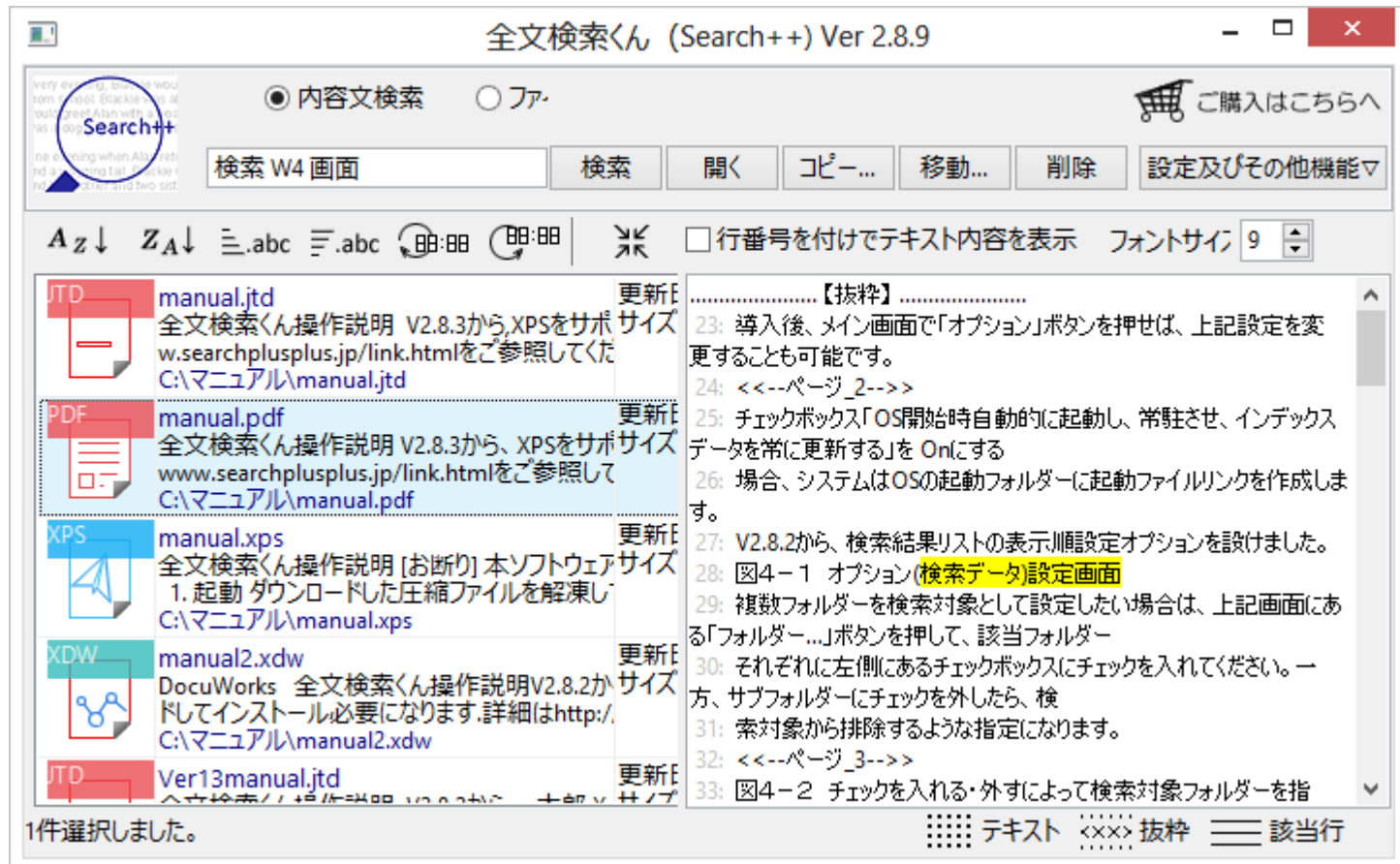


図 2 6 近傍検索

10. 抜粋表示機能

該当内容の抜粋表示機能は、マッチした行の前後数行を表示する機能です。表示行数を増やしたい場合、オプション画面で該当設定を変えられます、最新の設定値は次の検索時に反映します。

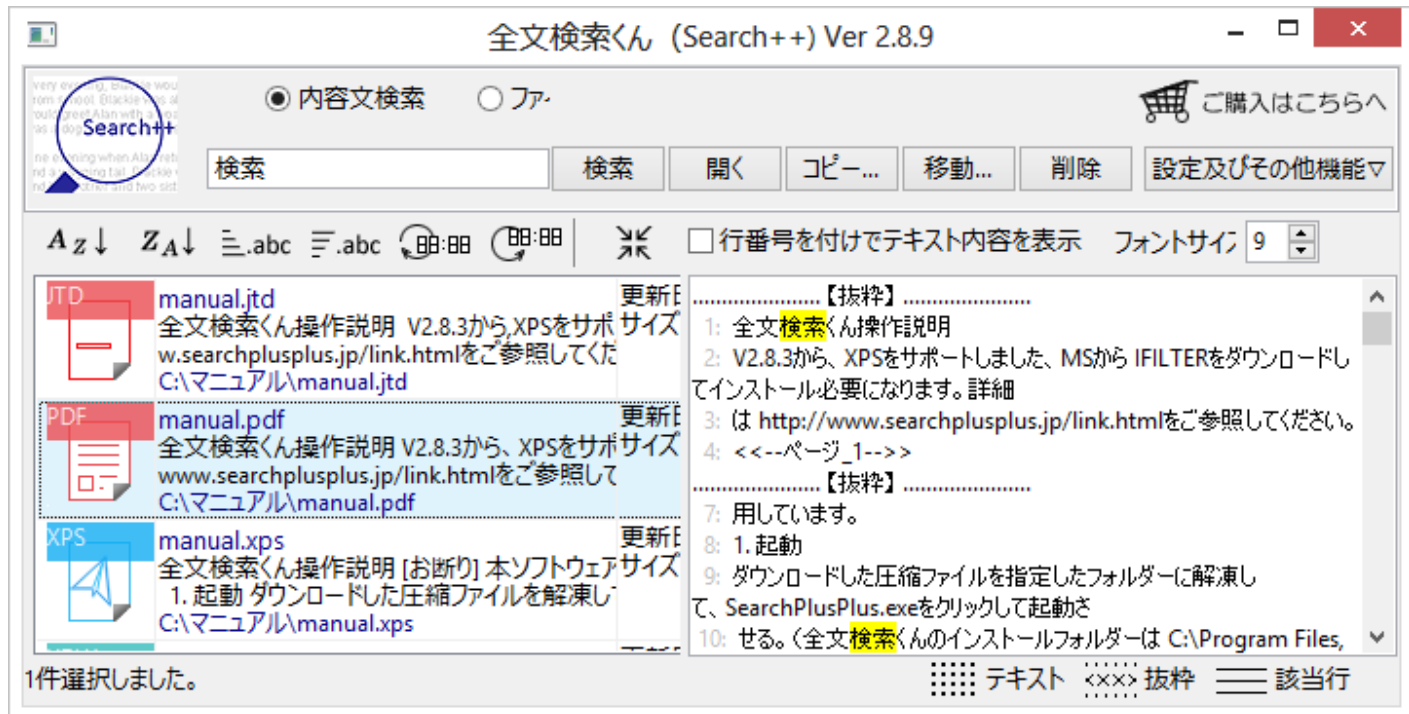


図 2 7 抜粋表示機能

11. その他ソート機能及び絞り込み機能

検索結果に対して、更新時間順（昇順、降順）、ファイル名（フルパス）、ファイルタイプでソートもできれば、下記画面のように指定した条件での絞り込むこともできます。

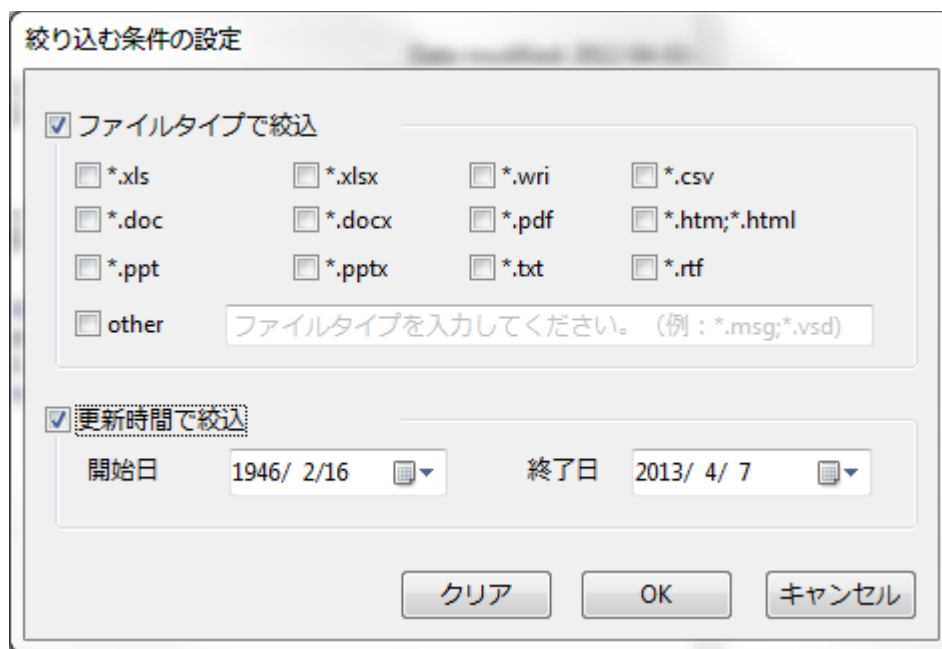


図 2 8 絞り込み条件設定

検索結果及び絞り込んだ結果をテキストへ出力も可能です。

ほか、「設定及びその他機能」→「本ソフトについて」メニューをクリックすれば、各種情報確認も可能です。



図 2 9 マニュアルなど各種情報

12. ホットキーについて

オプション画面でホットキーの設定ができます。設定したホットキーを押すと、全文検索くん (Search++) が最前面になります、つまり、カレントプロセスとの前後関係の調整が行います。ただ、カレントプロセスは Adobe Reader の場合 (例えば、Adobe Reader で PDF を開いている場合)、Adobe Reader の保護モード設定 (デフォルト: オン) をオフにしないと、このような調整が効かないです。

保護モードを外す方法は Adobe Reader のバージョンによって違います。

Reader X 以下では「編集」メニュー>「環境設定」の「一般」タブを選んで、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにする。

Reader XI では「編集」メニュー>「環境設定」の「セキュリティ (拡張)」タブを選んで、「サンドボックスによる保護」領域で、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにします。

ホットキー以外にオプション画面に「マウスを振る」で検索画面を呼び出すことも可能です。マウスを横に振れば、画面を呼び出します。

13. インストール・アンインストール機能

全文検索くん (Search++) のインストールはダウンロードしたファイルを指定した場所に解凍するだけで、パソコンの管理者権限を持っていなくても、全文検索くんの利用ができます。

OS のレジストリにも、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」リストにも登録しないです、アンインストールの場合、同梱のツール (DeleteTool.exe) をクリックしてください、ソフトウェア本体は勿論、インデックスデータ、各種リンクなども削除されます。

WinXP の場合、アンインストール機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。（ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>）

14. メモリ管理ツール

ファイルのサイズが大きいまたはファイルに画像などが大量にある場合、インデックス作成処理では、必要となるメモリ量はツールの最大メモリ値設定値を超え、処理できない場合、下記画面が表示されます。該当ファイルを対象外にするか最大利用メモリを変更するかを選べます。何もしない場合、10 秒を経つと、該当ファイルをスキップします。

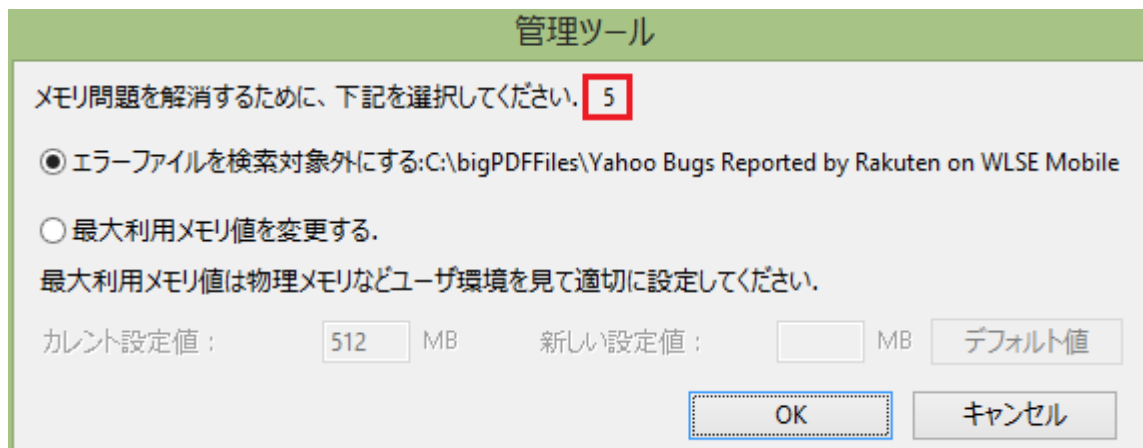


図 3 0 管理ツール

ただし、設定値が大きすぎ、システムの処理能力外になり、ツールが起動できなくなる場合は、このメモリ管理ツールを手動で起動させ、最大利用可能メモリを減らしたり、デフォルト値に戻したりすることができます。メモリ管理ツールの手動起動には、MemAdm.exe をクリックしてください。

全文検索くん標準版の処理可能ファイルの最大サイズは 3 0 MB と設定され、検索対象フォルダーは 20GB で、最大利用可能メモリは 1000MB を目安としています。

15. インデックスの作成、更新

インデックス作成はファイルの数によって、時間がかかる場合があります、その時、ユーザは一旦インデックスの作成を中止させることができます。

「設定及びその他機能」→「中止」メニューをクリックすれば、一旦中止になります。中止になるまでインデックス化処理済みファイルに対して、検索することができます。

中止後、本ソフトを再起動すれば、システムは中止させた場所を検知し、インデックス作成を再開します。

また、前文の 14. で記述したように、ファイルのサイズなどの原因で中断した場合、その後、メモリ管理ツール画面で利用可能メモリを増やしたり、エラーとなる対象ファイルをスキップしたりのは可能です。

常駐モードでご利用している場合、全文検索くんはインデックス更新を自動的に行うことが可能です、図 5 で示したように「アイドル時間が続くと更新する」、「指定時刻で更新する」、「手動で更新する」とのオプションがあります。「アイドル時間が続くと更新する」とは指定したアイドル時間が続くと、全文検索くんはいままで OS から通知した変更があるファイルを対象にして、インデックスデータを更新する、「指定時刻で更新する」とは業務の忙しい時間帯を避けて、たとえば、お昼時間などを指定して、対象ファイルをインデックス化することです。「手動で更新する」とはユーザが自ら更新ボタン(メイン画面にある)を押して、インデックス更新を行うことです。これら指定によって、CPU、メモリに負荷が思いインデックス化処理をアイドル時間を利用することが可能になります。

さらに、指定時刻で更新する場合、自動シャットダウンも選択可能です。毎日夜中にインデックス更新を設定して、さらに自動シャットダウンオプションを付けると、インデックスデータを処理してから、「シャットダウンします」ようなメッセージが出て、10 秒以内キャンセルしなければ、シャットダウンを行います。

非常駐モードでメイン画面の「即更新」ボタンを押すと、インデックスデータ作成時点での対象ファイル情報と現時点での最新情報を比較して、変更のあるファイルを対象にインデックスデータを更新する機能になります。非常駐モードは名前の通り、常駐しないため、メモリ、CPU に対しての負荷が少ないです。

16. IFilter 機能

IFilter をサポートします。それぞれの IFilter をインストールしたら、一太郎、Docuwork、縦書き PDF、XPS のの検索ができます。（IFilter のサポート情報及びダウンロード先は <http://www.searchplusplus.jp/link.html> を参照してください、config.xml の設定を変更する場合、全文検索くんを先に終了させる必要があります。）

同梱の IFilterStatus.exe をクリックすれば、全文検索くんの実行環境に上記 IFilter が入っているかどうかをチェックし、入っていないければ、ダウンロード先のウェブサイトを開き、ダウンロード及びインストールをお願いします。この機能をメニューから起動させるには、「設定及びその他機能」メニューの「IFilter のインストール状況」サブメニューをクリックしてください。

WinXP の場合、この機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](#) のインストールが必要です。（ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>）

V2.8.5 の場合、一太郎文章に対して、検索機能を強化しました。一太郎本体をインストールしてある場合は、IFILTER で検索できない文章でも、一太郎本体の機能を利用して、インデックスデータを作成して、検索できるようにしました。ファイルの内容によって、一太郎フォントがフォントが認識できない場合は下記の画面がでますが、「確認」ボタンを押したら、処理が進みます。

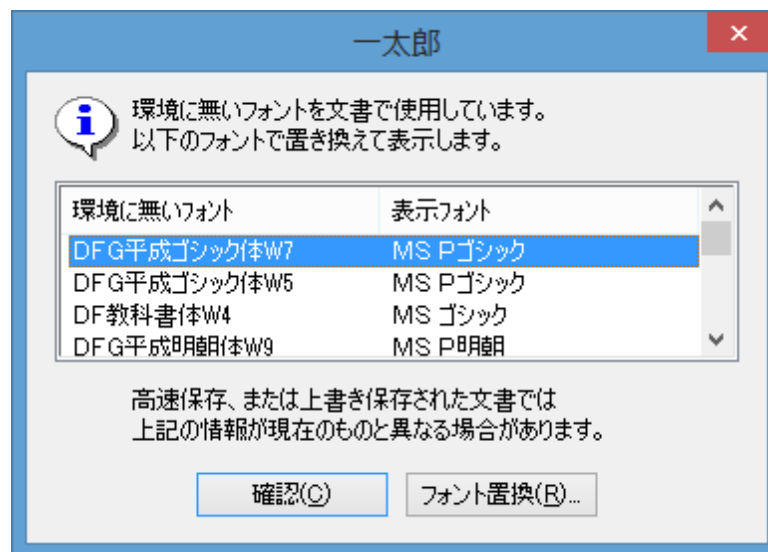
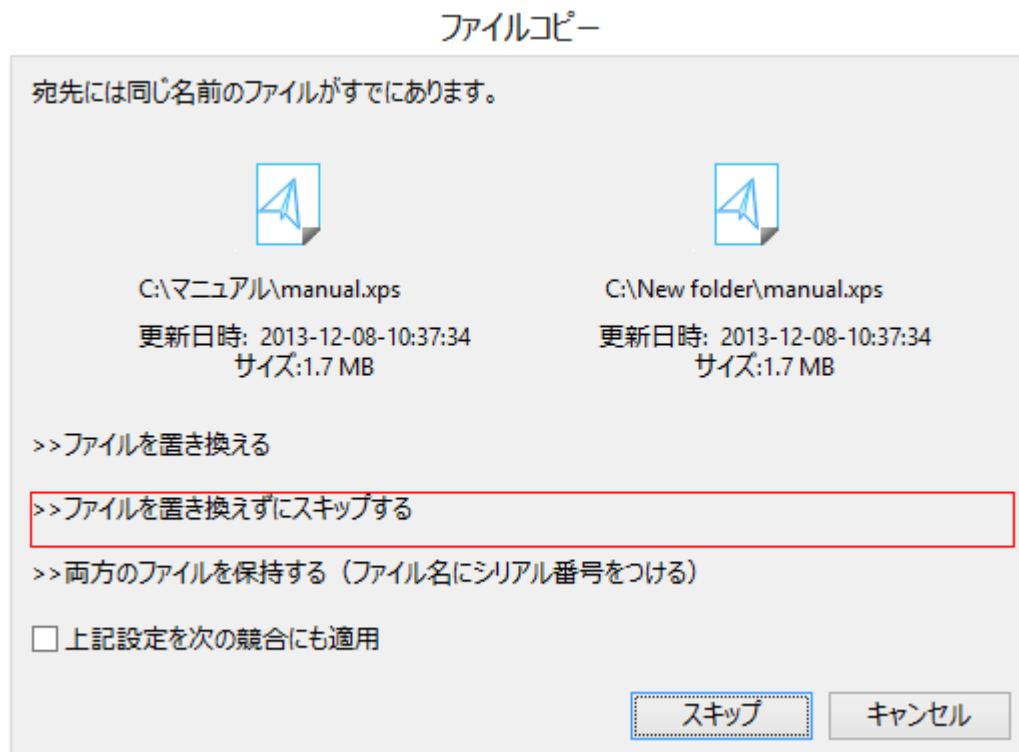


図 3 1 一太郎からの確認メッセージ

17. ファイルコピー・移動・削除

検索結果リストのファイルを選択して、画面上の「コピー」、「移動」ボタンを押せば、コピー先・移動先の指定ができます。指定場所に同名ファイルが存在している場合、下記のダイアログが出て、上書きするかどうかを指定できます。



18. ネットワーク認証

本ツールは1台のPCにつき1ライセンスが必要です。ライセンスを複数のPCで共有することはできません。V3.2.2.2から従来のライセンス検証機能を強化して、ライセンスの検証はネットワーク経由になります、つまり、ネットワーク認証と解除機能を提供しています。メイン画面の「その他」->「認証」ボタンを押して、ライセンスキーを押すと、ネットワーク認証を行います。

認証済みの場合、該当メニューは「認証解除」と変わって、認証の解除を行うことが可能になります。ネットワークに接続していないユーザーに対して、support@searchplusplus.jpにメールを送って、メールでの認証も受付ます。

本ツールの全機能に対して、同じマシンで30日間無料で試すことが可能です。最初目の導入日は使用期間の開始日になります。各種お問い合わせについて、support@searchplusplus.jpへお願いいたします。